

富士山に上る

**ブルドーザーの助けを借り、
念願の富士山に妻と登頂**

富士山が新雪に覆われる頃、五合目辺りから山頂に向けて、ジグザグの道がくっきりと見えるのにお気付きの方があると思う。私は、最初それが登山道だと思い、「さすがは富士山。夏に多勢の人が登れば、あんなにはっきりと道筋が見えるようになるのか」と勝手に納得していたが、実は、そうではない。

あの道は、人間ではなく、ブルドーザーが山頂まで往復するのに使う道なのである。昔富士山に物資を運び上げるのは、多勢の「強力」と称される人々の役割であったが、今ではブルドーザーがその役割を担っている。前部にシャベルの代わりに大きな荷物箱を設け、これに飲食物品等登山者が必要とする物資を積み込んで、六合目から山頂までの各山小屋に順次配達する。下りると

きにはゴミを集めて五合目に帰ってくる。

ある時、縁があって家内ともどもこのブルドーザーに便乗し、山頂まで上らせていただいた。上りの行程は、各山小屋で荷物を配達しながらではあるが、それでも五合目から山頂までは二時間半くらいで着いてしまう。

夏とは云え、防寒具持参は勿論のこと、高山病にもかからぬよう小型の酸素ボンベも持参した。さらに、山小屋に到着するたびに周辺をできる限り歩き廻って、環境に適応するよう頑張ってみた。

お蔭で無事山頂に着いたが、せめて少しは自分の足でと思って登ったのが、ブルドーザーを降りてから富士山測候所まで。高さにして約50メートル分である。

長い間気象観測に重要な役割を果たしてきたこの測

候所も、今や人工衛星の時代になり、解体されてしまった。この写真は、念願の富士山頂に立ち、測候所をバックにして撮影した、私にとって記念碑的な一枚なのである。



児玉 幸治

日本情報処理開発協会
会長

